

第 5 回委員会

日時：2019 年 12 月 21 日（土）14 時～17 時

場所：日本図書館協会

出席：渡邊委員長、安食、石澤、木村、谷口、鵜田、藤井、村上（一）、村上（遥）、横山
<事務局>三浦

[配布資料]

1. 2019 年度第 4 回目録委員会記録（案）（5 ページ-A4、木村委員）
2. 今後の委員会活動に向けてのメモ（2019.12.21）（9 ページ-A4、渡邊委員長）
3. NCR2018 語彙定義の公開に係る作業項目メモ ver. 1.0（1 ページ-A4、谷口委員）
4. NCR2018 語彙定義の公開・提供検討メモ ver. 2.0（8 ページ-A4、谷口委員）
5. 目次案〔「JLA 図書館実践シリーズ」目次案〕（1 ページ-A4、木村委員）
6. 目次案〔「JLA 図書館実践シリーズ」目次案〕（1 ページ-A4、鵜田委員）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

2019 年度第 4 回の記録（資料 1）について確認を行い、確定した。

2. 第 105 回全国図書館大会第 10 分科会（11/22）の終了

公式記録による参加者数（含 関係者）は 57 名であった。大会記録集及び『図書館雑誌』2020 年 2 月号掲載予定「令和元年度（第 105 回）全国図書館大会ハイライト」の原稿は提出済みである。なお、年明けに次年度の全国図書館大会（和歌山開催）の分科会について照会がある見込みである。

[検討事項]

1. NCR2018 の解説書出版（「JLA 図書館実践シリーズ」）について

資料 5 及び 6 に基づき、解説書の目次構成について検討を行った。検討結果をもとに、より詳細な構成案にまとめ直し、おおよそのページ分量の割振りを付したものを次回委員会までに提示し、再検討することとした。

2. NCR2018 語彙定義の公開・提供について

資料 3 に基づき、今後の作業項目の確認を行った。

・語彙データの整備作業の一環として、対応する RDA 語彙の特定及び URI 記録作業を行う必要があるが、作業量が多いため、まずは提供ファイル内の「名称（英語）」を活用して RDA 語彙との機械的なマッチングが可能か確認することとした。

資料 4 に基づき、検討課題の対応について検討を行った。

・JLA 管理下の URI を使用するため、ベース URI の決定には JLA からの承認を要する。NDC データ（8 版・9 版）公開時の手続きを確認する。

- ・NDC データ（8 版・9 版）でハッシュ URI を採用した意図・経緯について確認を要する。
- ・複数のエレメントで用いる表 2.19.0.2 の語彙のリストの用語の対応として、「対応する RDA クラス/プロパティ」に挙げるエレメントを代表的にエレメント 1 つに絞る方法、又は同じ語彙を対応するエレメントごとに複数掲出する方法が考えられる。まずは、RDA 語彙における取扱いを確認する。

3. データ作成事例について

資料 2 に基づき、今後の作業の進め方について検討を行った。NCR2018 の解説書への活用可能性を考慮し、まずは図書（冊子）のデータ作成事例の試作を行い、作業量及び手順を把握するとともに、追加が必要な書誌データ例等の確認を行うこととした。

4. 「目録の作成と提供に関する調査」について

資料 2 に基づき、現在の検討状況について情報共有が行われた。

次回以降の委員会の予定

1 月 25 日（土）

2 月 29 日（土）

4 月 4 日（土）

以上